

# 第456回鉄鋼流通問題懇談会

2022年1月27日（木）14：30

Microsoft Teams によるリモート開催

## 議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
  - （1）地区の状況
    - 東京、大阪地区概況報告
  - （2）その他地区の概況
    - 鉄流懇1月例会で発表の各地区業況アンケート結果
  - （3）総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2022年4月 日（ ）14：30～

於：未定

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2022年1月）

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	兼松トレーディング
1. 需給動向（景況感）	<p>(店売り分野) 東南アジアからの建築資材、コラム材の入手難による建築中小案件の減少により、各特約店は8月中旬以降出荷減の状況が顕著。大型案件は来期も続く見通しとなっているも、来春以降の中小案件の復調に関しては疑問視する声も増えてきており、厳しい見通しが続いている。11月以降、自動車メーカー各社の減産の影響により、自動車分野向け鋼管出荷量も減少、12月も減産が続いており、鋼管需給にも不透明感がある状況。価格動向につき、協協メーカーは各社概ね12月現在(店売り)+60円/kgの値上げが実行。一方、問屋の再販価格は累計+60円/kgの値上げにて実行済みであり、値上げ基調は一段落している。</p>	<p>2021年11月末の薄板三品在庫(備報)は、前月末比で67千トン減の446万8千トンとなった。昨年7月以来、5か月ぶりに減少した。在庫内訳は、メーカー在庫が前月比7万8千トン減の201万5千トン、問屋在庫が同4万トン増の91万6千トン、コイルセンター在庫が同5万1千トン増の153万8千トンとなった。在庫率は2.52ヶ月となり、前月2.81ヶ月からは0.29ポイント減少。前月比で自動車生産が向上してきたことで、メーカーを中心に在庫消化が進み、また、自動車メーカーの減産発表を受けて、車載メッキ鋼板生産にブレーキをかけたことも奏功した。11月の全国のコイルセンター出荷量は126万8千トンで、3ヶ月連続の増加となった。自動車生産が回復に向かったことが寄与した。</p>	<p>11月末の全国厚板在庫は371千トンで前月比8,210トン増。受け入れ量が166千トンと、21年度で最も多く、出荷量は前月比1,921トン増加したものの、在庫量が増えた結果となった。在庫率は全国ベースでは前月比2.4ポイント上がり234.7%と、出荷量が改善傾向にあるものの、適正在庫率と言われる200%を依然大きく上回っている。需要に関しては、造船、建機、産機共に好調。半導体不足の影響はあるものの堅調に推移。建築も盛り上がり欠けているものの大型案件が本格化する見込みにて回復基調。土木・橋梁は物件後ろ倒しになったため、やや弱含みであるが、全体的には厚板需要は堅調と言える。一方、供給面ではタイト感が顕著。出荷量も増えており、大幅値上げも天井感あり。</p>	<p>棒鋼 足下、セコンは、資材価格上昇を受けて買い控えているとみられ様子見状態にあり、引き合いは低調。しかしながら、鉄スクラブ 価格の高位安定と副資材、電力、運送等のコスト上昇による、各メーカーの値上げ表明により、市況は強基調で推移する見込み。 形鋼 12月、1月と季節的要因もあり、需要少なく、引き合いは低調。市中在庫は、適正水準にあり、歯抜けサイズも散見されるが、タイト感はない。市況は、実需の少なから売り腰し弱く、足踏み状態。現状価格では収益悪化の為、今後、市況形成に向け、売り腰を再度引き締める必要あり。</p>
2. 需要産業動向	<p>(建築・土木) 9月の新設住宅着工戸数は前年同月比4.3%増の7.3万戸と7ヵ月連続の増加。内訳は、分譲(14.9%減・3ヵ月ぶり)が減少した一方、持家(14.9%増・11ヵ月連続)、貸家(12.8%増・7ヵ月連続)が増加。 (自動車) トヨタ自動車など国内乗用車メーカー8社の21年10月度世界生産は前年同月比24.2%減の184万8千台と4ヵ月連続のマイナス。国内生産は、前年同月比40.2%減の計48万1630台、海外生産は前年同月比16.3%減の136万台となった。トヨタは、12月以降、これまでの減産を取り戻す予定だったが、東南アジアの新型コロナウイルスに伴う部品調達遅延や半導体不足、国内の物流逼迫により、国内工場は一部稼働停止となった。22年1月の世界生産が1月として過去最高の80万台程度となる予定を公表したが、予断を許さない状況が続く模様。 (建機) 10月の建設機械出荷金額は、総合計では27.8%増加の2,439億円となり、12ヵ月連続の増加。内需は1.5%減少の856億円、外需は52.3%増加の1,583億円となった。中国を除き、全世界で好調。主要メーカーの21年1-9月期決算は各社が大増益を達成。顧客からの注文や稼働率も落ちていないが、鋼材をはじめとする原料価格上昇により、各社とも対策に当たっている。 (造船) 9月の起工量は前年同月比32.0%減の57万G/Tと2ヵ月連続で減少。10月の輸出受注約量は前年同月比51.5%増の111万G/Tと2ヵ月ぶりに増加。10月末の手停工事量は前月比2.1%増の1,813万G/Tと3ヵ月ぶりに増加した。受注は回復傾向にあるが、再編などで体力を回復した韓国・中国企業が受注攻勢に出て競争が激化したため、国内外の造船業界は再編の動きがさらに加速している。</p>	<p>2021年11月の自動車国内販売は、35万2千台(前年同月比14.4%減)と、5ヶ月連続で前年比マイナスとなった。乗用車が27万1千台(同11.9%減)、トラックが5万8千台(同18.8%減)。11月の民生用電気機器の国内出荷金額は、1,964億円、前年同月比97.5%と6ヵ月連続のマイナス。ルームエアコンは6ヵ月連続のマイナス、電気洗濯機は5ヵ月ぶりのプラスとなった。また、住宅着工の回復により、IH クッキングヒーター、食器洗い乾燥機、換気扇なども前年を上回った。国土交通省より発表された11月の新設住宅着工戸数は7万3千戸(前年同月比3.7%増)であった。3月以降、9ヶ月連続で前年同月比増加(季節調整済年率換算値では前月比4.9%の減少)。持家は前年同月比5.5%増と13ヶ月連続増加。貸家は同1.4%増の9ヶ月連続増加。分譲住宅は同6.5%増と2ヶ月連続の増加。</p>	<p>造船の12月末輸出船手持工事量は前年同期比28.5%増の1,871万GTと416万GT増加。11月比では1.35%増と4ヵ月連続増加となった。2021年度4-12月分の輸出船受注量は、前年同期比219%増の1,152万GTと626万GT増加。建設機械の11月の出荷金額は内需が949億(前年同月比5.2%増、外需が1,489億(同48.6%増)、合計2,438億円で前年同月比28.1%増となった。総合計では13ヶ月連続で増加。大手建機メーカーの来上期生産計画は5%前後の増産見込みで好調維持しているが部品調達問題、外注先加工能力の問題で調整の可能性あり。 産業機械の11月受注金額は内需が2,348億円(前年同月比4.4%増)、外需が1,696億(同86.1%増)、合計4,044億円で前年同月比28.0%増。機種別ではボイラ・原動機、鉦山機械、化学機械、ポンプ、圧縮機、運搬機械、変速機、金属加工機械が堅調。建築は大型再開発案件が好調。また、大型物流倉庫やデータセンター案件の伸びが目立つ。需要は回復基調。一方中小案件も動き出してきてはいるものの、鋼材高騰による採算悪化、物件後ろ倒しなどが影響し、先行き不透明感に残る。</p>	<p>今年度の国内鉄骨需要は、当初予想の年間450万トン台を上回り、年間460万~470万トン台レベルとなる見込み。首都圏では東京リゾビック・パブリックの終了で都市開発案件の工事が再開したことや、東名阪3地区の高速道路周辺での大型物流倉庫の建築が好調な事による。 2021年11月の建築着工統計によると、全建築物の着工床面積は、前年同月比8.0%増の1013万㎡。建築主別で公共向けは6.8%増の36万㎡で2ヶ月連続の増加。民間向けは8.0%増の977万㎡で9ヶ月連続の増加。構造別では、S造が、前月比34.8%減(前年同月比5.4%増)の346万4千㎡。RC造が7.9%増(前年同月比16.3%増)の174万7千㎡、SRC造は35.7%減(前年同月比50.5%減)の141万㎡。</p>
3. 輸出入動向	<p>2021年11月鋼管輸出量 継目無鋼管: 1万1,767トン(前月比▲13.7%) 溶接継目鋼管: 1万6,127トン(前月比▲40.5%) 2021年11月鋼管輸入量 継目無鋼管: 1,420トン(前月比+2.9%) 溶接継目鋼管: 1万3,400トン(前月比+27.7%)</p>	<p>11月の薄板三品輸入量は25万7千トン(前年同月比13.5%増)であった。主要品種別では、熱延鋼板が10万2千トン(同2.9%増)、冷延鋼板が7万3千トン(同19.2%増)、亜鉛めっき鋼板が8万1千トン(同24.2%増)となっている。11月末の輸入岸壁在庫は15万トンで、前月比で2千トン減となり、前年同月比では42.9%の増加。</p>	<p>11月の輸入通関実績は前月比1千トン減の39千トン。中国からの入量はほぼ無く、韓国からが35千トン(前月比0.4千トン減)台湾が3.8千トン(前月比2.9千トン増)となった。11月の輸出船積実績は前月比31千トン増の246千トン。中国向けが21千トン増、韓国向けが2.4千トン増、台湾向けは6千トン減。東南アジアではベトナム向け15千トン増、シンガポール向け4千トン増となった。</p>	<p>輸出 異形棒鋼の2021年11月の輸出量は2万5386トンで前月比53.1%減少、前年同月比で15.6%増加した。平均単価は8万8858円/トンで前月比1814円の値下がりとなった。単価が値下がりのしたのは昨年の実績で初。 輸入 2021年11月の輸入量、H形鋼は実績なし(前月比139トン減)。</p>
4. 海外市場動向	<p>(エネルギー) 全般的にプロジェクト案件数が減少しており、22年度についても需要は低調な見通し。脱炭素の流れを受け、石油会社各社も従来型の石油・ガスへの新規投資に対して慎重になっている。</p>	<p>世界鉄鋼協会がまとめた世界64カ国・地域の11月の粗鋼生産量は、中国が大幅高となったこともあり前月比2.4%減、前年同月比9.9%減の1億4,326万トンと、4ヶ月連続で前年比マイナスとなった。国別では中国が前年同月比22%減の6,930万トンとなり、中国を除いたベースでは同5.4%増と9ヶ月連続で前年を上回った。コロナ感染再拡大により、中国・欧米では景気回復ペースの鈍化の一因となっている。また、半導体等の供給制約は構想期には時期が功かるとみられ、物流やエネルギー価格上昇とともに、世界経済の押し下し要因のひとつとなっている。</p>	<p>中国は景気回復、不動産及び工事の内需が弱く、市況は弱含み。中国国内需の本格回復は旧正月以降で、旧正月までは大きな動きはないものの弱含みの見方が大勢。韓国メーカー3社の21年1-11月の販売量合計は、817万トンで前年同期比0.4%増。内、国内向けは633万トンで前年同期比10%増、輸出向けは184万トンで前年同期比22%減少。韓国は造り、中国・欧米では景気回復ペースの鈍化の一因となっている。また、半導体等の供給制約は構想期には時期が功かるとみられ、物流やエネルギー価格の上昇で再び下落。</p>	<p>年末に下落した中国の鋼材市況は年明けに上向いたが、品種により上げ下げが混在する形となった。地方の債権発行が再開しインフラ整備が動く見通し。一方で政府が不動産投資を抑える方針を伝え、建築用の鋼材需要の低迷が続く可能性があることから冬季の在庫積み増しを見送る流通が多くなっている。春節明けまで商いは閑散とし、様子見が続く見通し。</p>
5. トピックス				<p>7月のビレット市況に先高感が始まっている。足元のビレット輸出価格は、年末から大きく変化は無いものの、一部海外メーカーは7月価格を引き上げる動きも見られる。</p>

## 鉄鋼流通問題懇談会（2022年1月）

発表者	メーカー
発表項目	JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・12月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で前回（9月）調査と同じ+18となった。前回調査で既に高水準であったことから改善が一服した。設備投資需要の追い風を受けた生産用機械分野での改善は見られたが、資源コスト上昇を受けた素材分野や、正常化に至っていない自動車分野などが、景況感回復を停滞させた。先行きについては+13と5ポイントの悪化。今後の感染状況や、資源価格の行方など、先行きを読み難い状況は続いており、慎重に見る企業は多い。しかし、21年度設備投資計画は大企業では前年度比+9.3%。ほぼ前回（+10.1%）比で若干の下方修正となったが堅調な設備投資意欲が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家計部門について、11月小売業販売額は前年同月比+1.9%と2ヶ月連続の増加。ガソリン等の資源高騰影響も見られた。</li> <li>・製造部門では11月四輪車生産は前月比▲3.3%と4か月連続のマイナス、一方機械受注は+3.4%と2か月の増加。</li> <li>・建築部門では11月の全建築物建築着工床面積は10,125千㎡と9月の微減（▲1.2%）を除くと9か月連続の前年同月比増となった。</li> </ul> <p>（海外）・総じて世界経済は回復が継続している。しかし、特に21年後半において、経済の再開以来急増した需要に供給が追い付かず、サプライチェーンの混乱が発生したほか、労働力不足、資源価格の上昇などにより、一部の国でインフレ率が大幅に上昇するなど、懸念も多く見られた。また足元でのオミクロン株拡大に行動制限等の措置が導入された場合は、大きな下押し圧力がかかることが想定される。</p> <p>米国：堅調な内需を背景に回復が継続しているが、オミクロン株の影響と金融政策変更（金利引き上げ）には注視が必要。</p> <p>中国：財政・金融における引き締めへの政策転換により、不動産市場の混乱（インフラ投資鈍化）など経済成長率は一時的に停滞も、徐々に巡航速度に回帰すると想定。一方で、ゼロコロナ政策による経済活動への影響（操業停止や物流停滞）は注視が必要。</p> <p>ASEAN：域内各国の経済回復は進むが、先進国の金融政策変更によっては、資産価値下落懸念などの混乱も想定される。</p> <p>&lt;国内鉄鋼需給&gt;</p> <p>（生産）・21年12月の粗鋼生産は793万tと前年同月比で10ヶ月連続の増加。21年通年では9,633万tと前年比+15.8%となっている。</p> <p>（出荷）・11月の普通鋼国内向け出荷は358万トンで9ヶ月連続の増。</p> <p>（在庫）・11月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は604万トン4ヶ月連続の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月末の薄板3品在庫は446万トン（同▲7万トン）と5ヶ月ぶりの減少。</li> <li>・11月末の厚板シャー在庫は37万トン（同+1万トン）と3か月連続の増加も依然低位。</li> </ul>
2. 需要産業動向	<p>〔建築〕・11月の新設住宅着工戸数は7.3万戸（前年同月比+3.7%）で9ヶ月連続の増加。持家・分譲・貸家いずれも増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非住宅着工床面積は374万㎡（同+10.9%）で2か月連続の増加。公益事業、鉱工業で増加。</li> </ul> <p>〔自動車〕・12月の国内販売（輸入車除く）は30.7万台（前年同月比▲10.5%）。6か月連続の減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月の完成車輸出は34.2万台（同▲13.4%）で4か月連続のマイナス。多くの地域向けで減少が見られた。</li> <li>・11月の四輪生産（速報）は75.6万台（同▲3.3%）で4ヶ月連続のマイナス。</li> </ul> <p>〔造船〕・12月の新造船受注量は64万GTの受注、12月末の手持工事量は1,871万GTと6月以降1,800万Gt前後を安定して推移。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕・12月の全鉄鋼輸出は281万トン（前年同月比+10%）で8ヶ月連続の増加。暦年でも3,440万t（前年比+7%）となった。</p> <p>〔輸入〕・11月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は42万トン（前年同月比+9.2%）で2か月ぶりの増加。</p> <p>ただしコロナ以前の19年比では低位で推移。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月の世界粗鋼生産は1億4,330万トン（前年同月比▲9.9%）と4ヶ月連続の減少。</li> <li>・12月の中国粗鋼生産は8,619万トン（同▲7%）。21年通年の粗鋼減産が見えたことから、11月6,931万トンからは増加。</li> <li>21年暦年粗鋼生産は、10億3,279万トン（前年比▲3%）</li> <li>・12月の中国鋼材輸出は503万トン（同+4%）。粗鋼生産と比較すると、高位で推移。</li> </ul>